



2023年3月期 第2四半期決算報告

2022年11月10日

株式会社 ニコン

1. 中期経営計画進捗トピックス

2. 2023年3月期 第2四半期決算報告

3. 2023年3月期 通期見通し

中期経営計画は順調にスタート 成長戦略で具体的進展



中期経営計画の全体像

中期経営計画
資料より

2025年のありたい姿

お客様の欲しいモノやコトをお客様にとって最適な方法で実現

全社方針

ソリューション提供の強化により、事業安定化と収益拡大を実現、
継続的に社会的・経済的価値を創出

「主要事業」安定化

映像

精機

顧客接点と提供価値を拡大し
安定収益を確保

「戦略事業」収益拡大

ヘルスケア

コンポーネント

デジタルマニュファクチャリング

有望市場・差異化領域で
顧客と新たな価値を創造

2025年度 数値目標

売上収益 7,000億円

営業利益率 10%以上

ROE 8%以上

経営基盤

サステナビリティ戦略、人的資本経営、顧客・従業員重視のDXを推進
技術・ものづくりという共通価値基盤でシナジー創出
コーポレートガバナンスの向上による透明性の高い経営

デジタルマニュファクチャリング事業の進展 ～ ①戦略投資



上期に公表した戦略投資案件

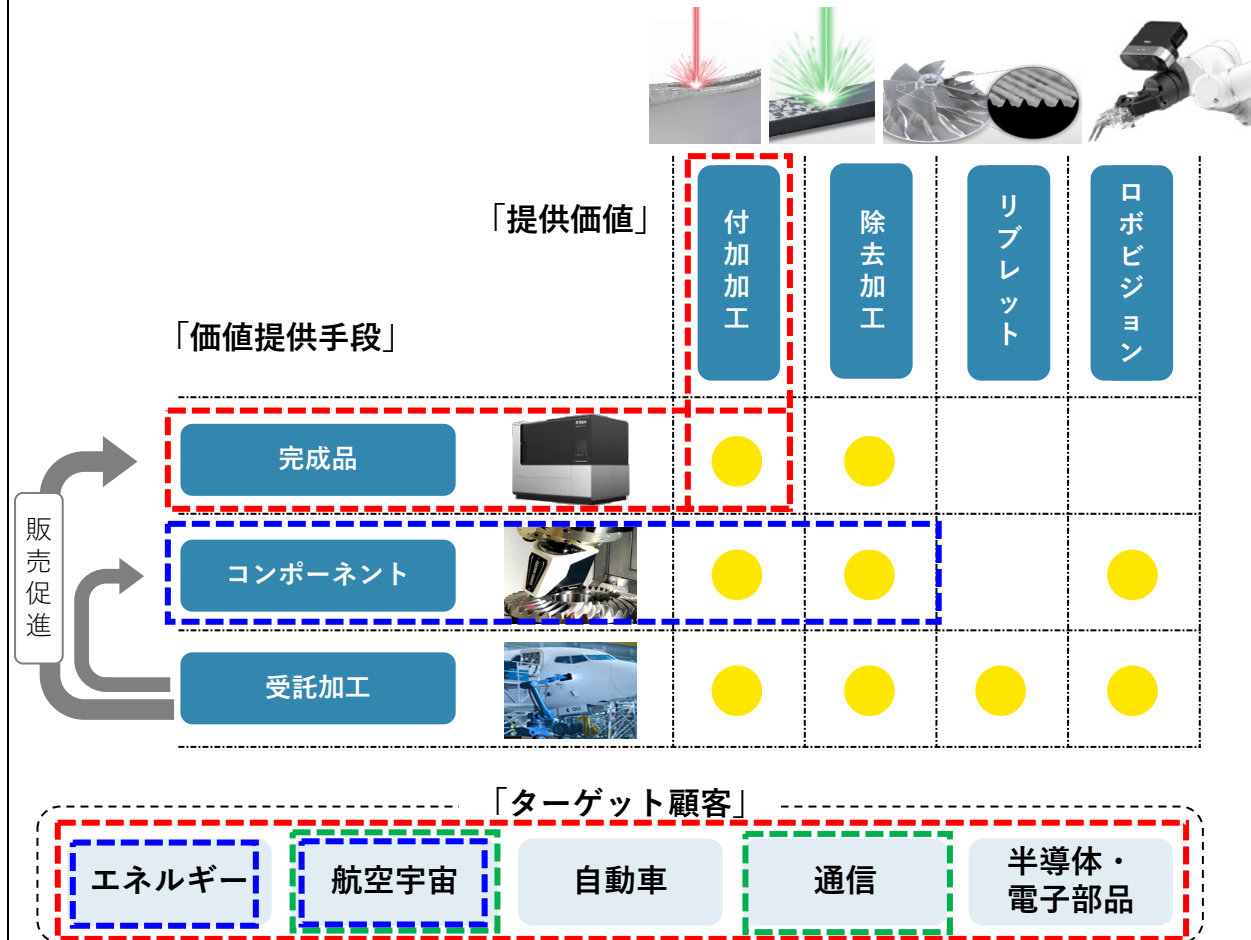
出資先	所在国	出資規模	価値提供手段
SLM Solutions 	ドイツ	840億円*相当 約7.3%出資済 TOB実施中	「完成品」 金属3Dプリンター
Hybrid Manufacturing Technologies 	米国	マイノリティ 	「コンポーネント」 工作機械用着脱式ヘッド (付加・除去加工や計測・検査を一つの装置で実現可能)
Optisys 	米国	マイノリティ 	「顧客」 航空宇宙・政府系向け 高速通信用アンテナ

デジタルマニュファクチャリング（材料加工）領域で
新たなエコシステムの形成を目指す

* €622MMを€1あたり135.00円で換算

中期経営計画
資料より

独自の提供価値を組み合わせ、新たな市場を形成



SLM社買収案件の進捗状況



想定スケジュール

2022年9月2日
公表資料より

2022年9月2日

9月末

10月末

11月中旬

2023年1～6月

潜在的に
非上場化へ

- 増資に係る合意
- 大株主3者と取消不能契約を締結
- 本公開買付けの公表

- 本公開買付関連書類の開示
- 本公開買付け期間の開始

- 本公開買付け期間の終了
(4週間)

- 追加公開買付け期間
(2週間)

- 本公開買付けの完了⁽¹⁾⁽²⁾

注記 (1). 公開買付け期間の終了から12か月後をLong-stop dateとする
注記 (2). 関係当局からの許認可の取得及びその他
手続上の条件を満たすことを前提とする

実際の進捗 (日付はドイツ時間)

- 9月9日増資引受完了
(2.3百万株、約9.1%
完全希薄化後ベース
約7.3%相当)

- 本公開買付関連書類の開示 ⇒ 9月30日完了
- 本公開買付け期間の開始
⇒ 9月30日開始

- 本公開買付け期間の終了
⇒ 11月1日終了
完全希薄化ベースで
86.17%の株式を確保

- 追加公開買付け期間
⇒ 11月5日～18日予定

- 本公開買付けの完了
⇒ 海外投資に係る各国承認は
2023年3月までの取得完了
を目途

当初想定スケジュールに沿って、順調に進捗中

デジタルマニュファクチャリング事業の進展 ～ ②他社との協業



燃費改善やCO₂排出量削減に寄与

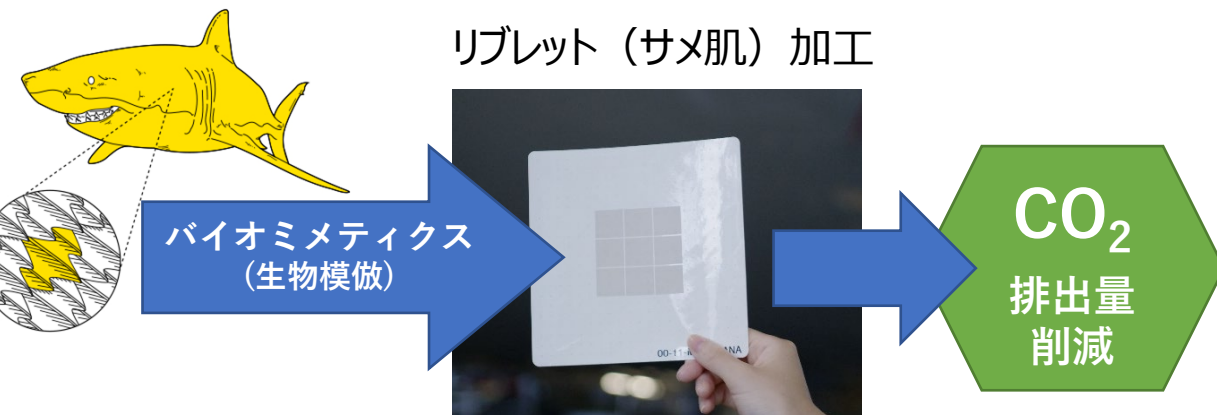
ANAが「ANA Green Jet特別塗装機」にニコンのリブレットフィルムを試験装着し運航

2022年10月3日 | PRESS RELEASE/報道資



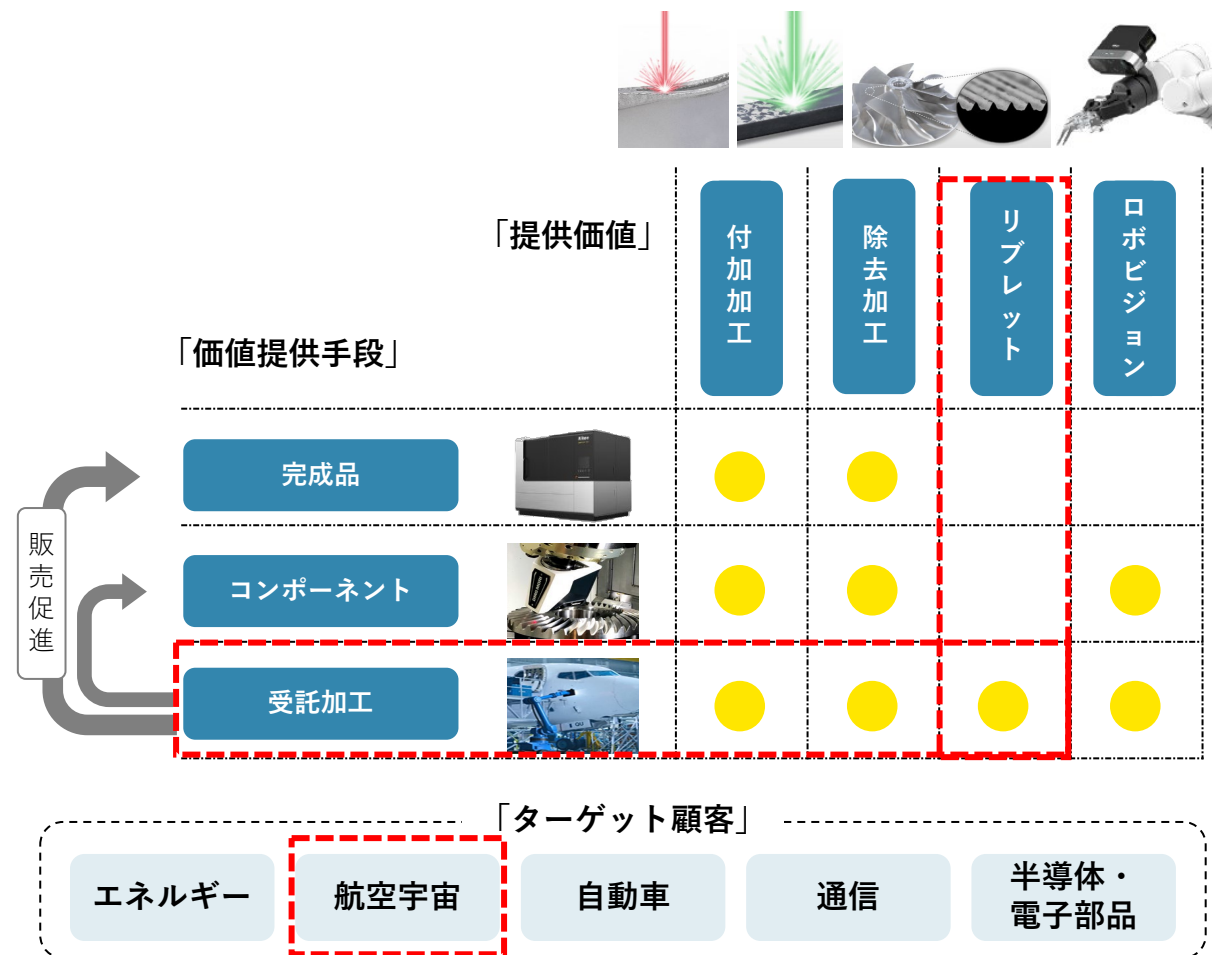
ANA Green Jet特別塗装機

リブレット（サメ肌）加工



中期経営計画
資料より

独自の提供価値を組み合わせ、新たな市場を形成

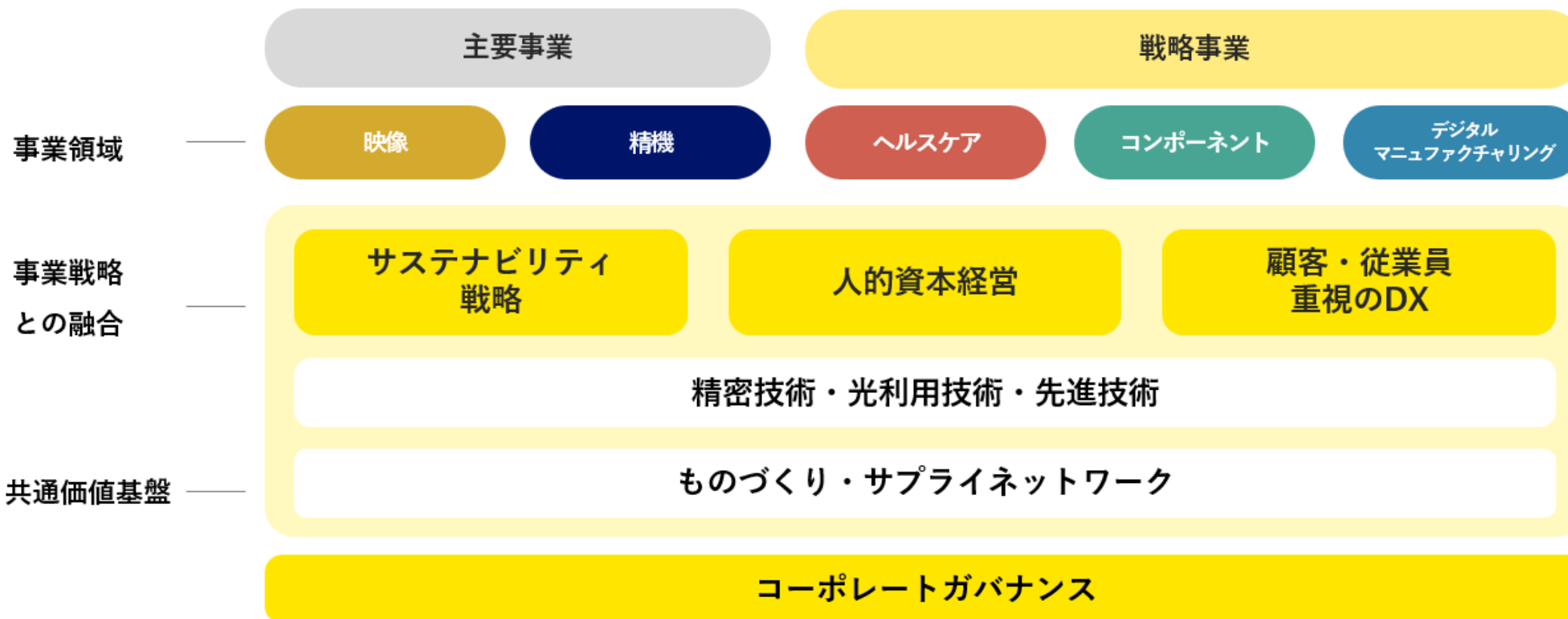


サステナビリティと事業戦略の融合、処遇見直しを含む人的資本経営の推進



事業を支える経営基盤の全体像

中期経営計画
資料より



経営基盤を強化し、顧客・社会にとって最適な価値を提供
サステナビリティ戦略、人的資本経営、顧客・従業員重視のDXに注力

1. 中期経営計画進捗トピックス

2. 2023年3月期 第2四半期決算報告

3. 2023年3月期 通期見通し

上期実績

- 売上収益 : 2,883億円
- 営業利益 : 244億円
- 当期利益* : 188億円

前年比

- 売上収益 : 153億円増
- 営業利益 : 77億円減
 - 精機事業を除くセグメントで増収増益となるも、FPD露光装置の販売台数減少の影響による精機事業での減収減益を打ち返せず
- 当期利益* : 76億円減

前回予想比 (8/4)

- 売上収益 : 133億円増
- 営業利益 : 14億円増
 - 精機事業の下振れやSLM社買収関連の費用発生を、精機事業を除くセグメントが円安効果もあり上振れし計画を上回る
- 当期利益* : 18億円増

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

2023年3月期 上期：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	2,730	2,750	2,883	+153	+133
営業利益	321	230	244	▲77	+14
営業利益率	11.8%	8.4%	8.5%		
税引前利益	359	240	260	▲99	+20
税引前利益率	13.2%	8.7%	9.0%		
当期利益*	264	170	188	▲76	+18
当期利益率	9.7%	6.2%	6.5%		
FCF	208	-	▲190	▲398	-
為替：USドル ユーロ	110円 131円	125円 134円	134円 139円	売上収益への影響	
				+258	+98
				営業利益への影響	
				+57	+21

下期以降の販売に向けた仕込みによる棚卸資産の増加やSLM社の株式取得等により、FCFはマイナス

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

2023年3月期 上期：セグメント別業績



単位：億円		22年3月期上期実績	23年3月期上期実績	前年比
映像事業	売上収益	892	1,145	+28.4%
	営業利益	125	222	+97億円
精機事業	売上収益	1,192	833	▲30.1%
	営業利益	275	62	▲213億円
ヘルスケア事業	売上収益	330	466	+41.2%
	営業利益	9	36	+27億円
コンポーネント事業	売上収益	167	260	+55.4%
	営業利益	34	98	+64億円
産業機器・その他	売上収益	146	176	+20.5%
	営業利益	▲16	15	+31億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲107	▲191	▲84億円
連結	売上収益	2,730	2,883	+5.6%
	営業利益	321	244	▲77億円

各セグメントに配賦されない全社損益は、前年の土地売却益の剥落・SLM社買収関連費用等の計上により減少

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む。セグメント間取引消去額は、22年3月期上期19億円、23年3月期上期▲13億円

2023年3月期 Q2：7-9月財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 Q2実績	23年3月期 Q2実績	前年比
売上収益	1,408	1,427	+19
営業利益	122	91	▲31
営業利益率	8.6%	6.4%	
税引前利益	148	95	▲53
税引前利益率	10.5%	6.7%	
当期利益*	106	70	▲36
当期利益率	7.5%	4.9%	
FCF	236	▲159	▲395
為替：USドル ユーロ	110円	138円	売上収益への影響 +150
	130円	139円	営業利益への影響 +31

売上収益は円安効果により増収となるも、営業利益以下は精機事業が前年を大きく下回り減益

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

2023年3月期 上期：映像事業



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	892	1,050	1,145	+253	+95
営業利益	125	180	222	+97	+42
営業利益率	14.1%	17.1%	19.4%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	39万台	-	37万台	▲2万台	-
交換レンズ	66万本	-	61万本	▲5万本	-
レンズ一体型 デジタルカメラ	13万台	-	7万台	▲6万台	-

- **前年比**：販売台数は初級機を絞ったことで減少。円安効果に加え、プロ・趣味層向け中高級機シフトが進み、平均販売単価が上昇し増収増益
- **前回予想比**：円安効果や中高級機シフトによる平均販売単価の上昇

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

2023年3月期 上期：精機事業



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	1,192	900	833	▲359	▲67
営業利益 営業利益率	275 23.1%	80 8.9%	62 7.5%	▲213	▲18
FPD露光装置	30台	-	13台	▲17台	-
半導体露光装置 新品／中古	6/9台	-	8/8台	+2/▲1台	-

- **前年比**：半導体露光装置（新品）の販売は前年を上回ったものの、大型パネル向けを中心とするFPD露光装置の販売減少を打ち返せず、減収減益
- **前回予想比**：FPD露光装置の販売は計画通り進捗したが、一部の半導体露光装置の据付を下期へ繰延したことから計画を下回る

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：2023年3月期より、半導体露光装置に線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記（2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示）

2023年3月期 上期：ヘルスケア事業



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	330	380	466	+136	+86
営業利益	9	30	36	+27	+6
営業利益率	2.8%	7.9%	7.9%		

- **前年比**：北米を中心に生物顕微鏡・網膜画像診断機器が好調に推移したことに加え、円安効果もあり増収増益
- **前回予想比**：網膜画像診断機器の販売が北米を中心に計画を上回る

2023年3月期 上期：コンポーネント事業



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	167	260	260	+93	±0
営業利益	34	80	98	+64	+18
営業利益率	20.8%	30.8%	37.7%		

- **前年比**：EUV関連コンポーネント、半導体関連製品向け光学部品・光学コンポーネント、FPDフォトマスク基板等の販売増加により増収増益
- **前回予想比**：経費の下期への繰延や光学部品・光学コンポーネントの販売増加等により営業利益は計画を上回る

2023年3月期 上期：産業機器・その他



単位：億円	22年3月期 上期実績	前回予想 (8/4)	23年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	146	160	176	+30	+16
営業利益	▲16	10	15	+31	+5
営業利益率	▲11.1%	6.3%	8.7%		

- **前年比**：産業機器事業では、画像測定システム等の測定機器や工業用顕微鏡の販売が好調で増収増益。「その他」に含まれる生産子会社の稼働率が上がり営業利益が大幅改善
- **前回予想比**：産業機器事業での、画像測定システム等の測定機器やX線/CT検査装置の販売が好調に推移

1. 中期経営計画進捗トピックス
2. 2023年3月期 第2四半期決算報告
3. 2023年3月期 通期見通し

2023年3月期 通期見通し：ポイント



売上収益

- **全社見通し 6,450億円**（前回予想から200億円上方修正）
 - 映像事業：上期実績と為替前提の変更を反映し、150億円上方修正
 - 精機事業：一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の繰延に伴い、100億円下方修正
 - ヘルスケア事業：好調な受注と為替前提の変更を反映し、130億円上方修正
 - 産業機器・その他：上期実績を反映し、20億円上方修正

営業利益

- **全社見通し 550億円**（前回予想据え置き）
 - 映像事業：増収効果により、60億円上方修正
 - 精機事業：一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の繰延に伴い、50億円下方修正
 - ヘルスケア事業：生物顕微鏡・網膜画像診断機器の増収効果等により、20億円上方修正
 - コンポーネント事業：光学部品、光学コンポーネントの好調を反映し、10億円上方修正
 - 産業機器・その他：増収効果により、5億円上方修正
 - 全社損益：上期実績を反映し、45億円下方修正

当期利益*

- **全社見通し 420億円**（前回予想据え置き）

株主還元

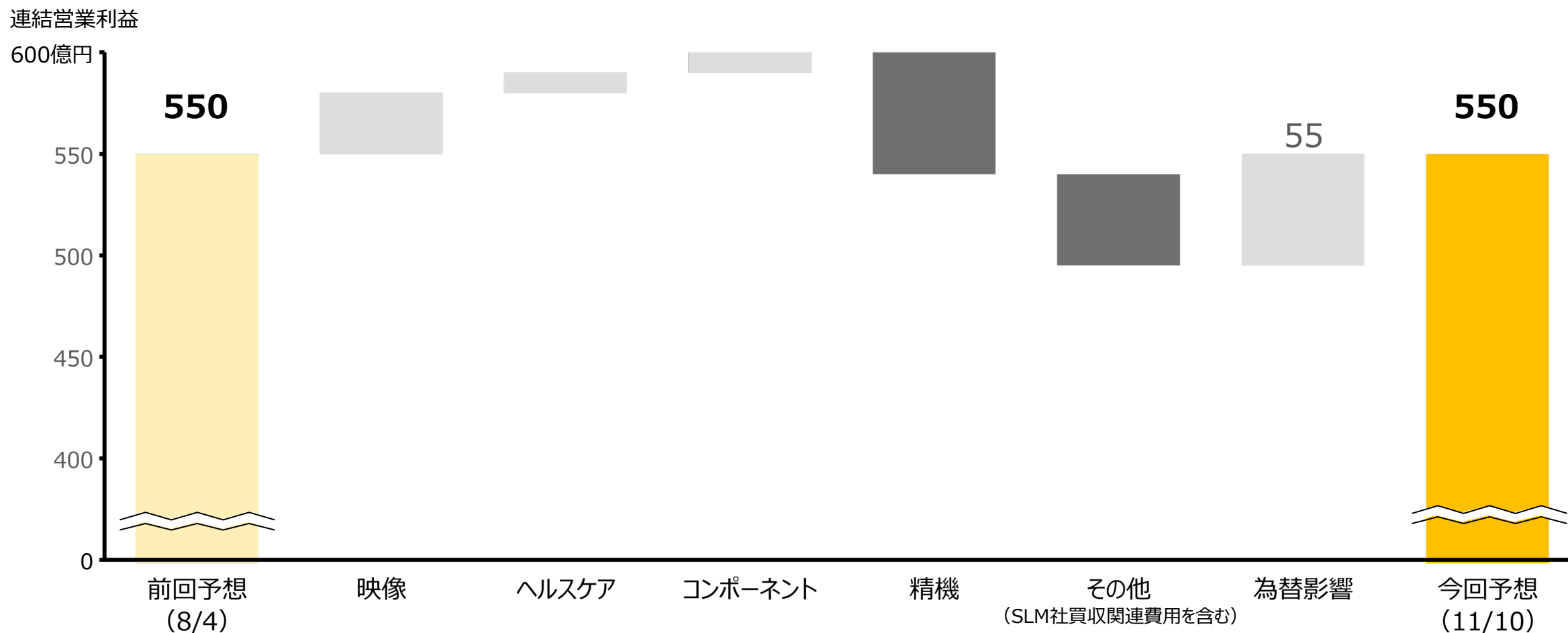
- **中間配当金20円、年間配当金予想40円**（前回予想据え置き）
- **自己株式の取得（10月末時点）：1,065万株・161億円相当取得済（上限300億円）**

為替前提

- **USD 135円、ユーロ 137円**（下期は、USD 135円、ユーロ 135円に変更）

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

(参考) 通期連結営業利益予想550億円の内訳変化



精機事業の減益やSLM社買収関連の費用発生を精機以外の事業の増益と円安効果により相殺

注: 各セグメントの増減は、為替控除後の金額

注: その他は、「産業機器・その他」と「各セグメントに配賦されない全社損益」の合計。SLM社買収関連費用は「各セグメントに配賦されない全社損益」の本社管理部門費用に含まれる

2023年3月期 通期見通し：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 実績	前回予想 (8/4)	今回予想 (11/10)	前年比	前回予想比
売上収益	5,396	6,250	6,450	+1,054	+200
営業利益	499	550	550	+51	±0
営業利益率	9.3%	8.8%	8.5%		
税引前利益	570	570	570	±0	±0
税引前利益率	10.6%	9.1%	8.8%		
当期利益*	426	420	420	▲6	±0
当期利益率	7.9%	6.7%	6.5%		
EPS	116.23円	114.78円	115.63円	▲0.60円	+0.85円
年間配当	40円	40円	40円	±0円	±0円
為替：USD	112円	122円	135円	売上収益への予想影響	
				+473	+263
ユーロ	131円	132円	137円	営業利益への予想影響	
				+102	+55

注：EPS（基本的 1 株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数

（2022年3月期実績は約3.67億株で計算、前回2023年3月期予想は約3.66億株、今回2023年3月予想は計算約3.63億株で計算）

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

2023年3月期 通期見通し：セグメント別見通し



単位：億円		22年3月期実績	前回予想（8/4）	今回予想（11/10）	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	1,782	2,150	2,300	+518	+150
	営業利益	190	270	330	+140	+60
精機事業	売上収益	2,112	2,400	2,300	+188	▲100
	営業利益	394	350	300	▲94	▲50
ヘルスケア事業	売上収益	732	800	930	+198	+130
	営業利益	43	60	80	+37	+20
コンポーネント事業	売上収益	408	530	530	+122	±0
	営業利益	127	170	180	+53	+10
産業機器・その他	売上収益	360	370	390	+30	+20
	営業利益	29	40	45	+16	+5
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲286	▲340	▲385	▲99	▲45
連結	売上収益	5,396	6,250	6,450	+1,054	+200
	営業利益	499	550	550	+51	±0

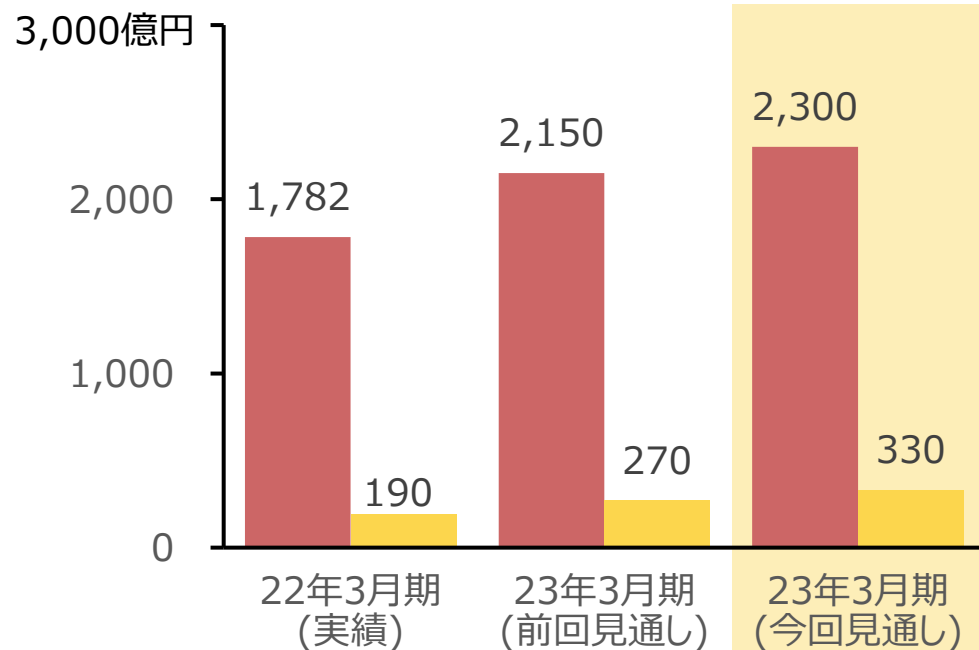
注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む

2023年3月期 通期見通し：映像事業



■ 売上収益 ■ 営業利益



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	512	510	540
ニコン	70	70	70

交換レンズ (万本)

市場規模	939	940	980
ニコン	127	125	125

レンズ一体型デジタルカメラ (万台)

市場規模	272	220	200
ニコン	19	10	10

● 売上収益：前年比 518億円増収（前回比150億円上方修正）

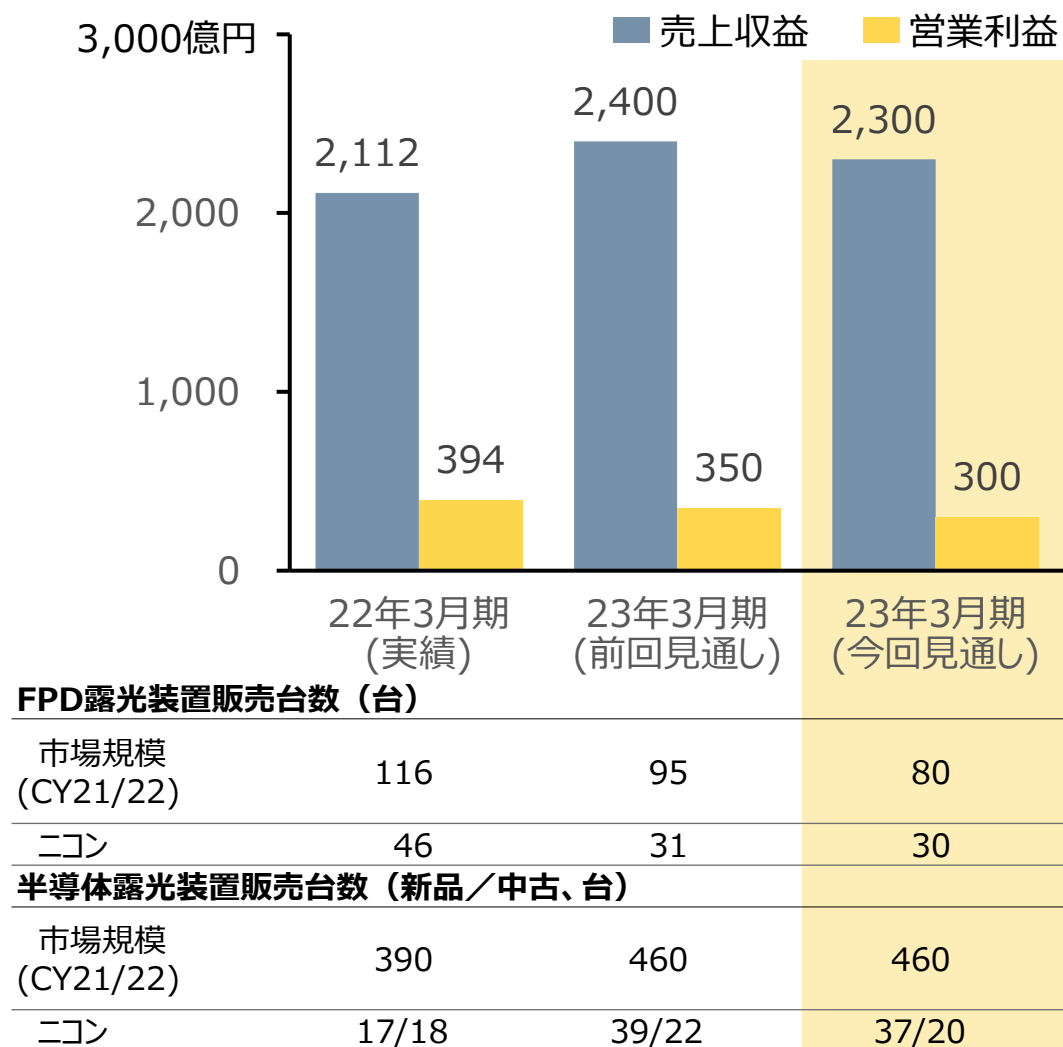
- 部品調達制約が解消に向かい、市場規模は拡大する見込み
- 当社は収益性を重視し、プロ・趣味層をターゲットとした中高級機カメラへの注力を継続
- 販売予定台数は据え置くも、ミラーレスカメラ・交換レンズを中心に売上拡大し、前年比増収を見込む
- 上期実績と為替前提の変更を反映し、通期予想を前回予想比150億円引き上げ

● 営業利益：前年比 140億円増益（前回比60億円上方修正）

- 中高級機カメラの販売増、平均販売単価の向上に加え、円安効果により、前年比増益を見込む
- 増収効果により、通期予想を前回予想比60億円引き上げ。下期は上期に比べ、販売強化のための費用増加を見込む

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

2023年3月期 通期見通し：精機事業



● 売上収益：前年比188億円増収（前回比100億円下方修正）

- FPD露光装置は設備投資の繰延で市場縮小。前年比販売台数の減少に加え、前回予想比では一部装置の来期への繰延もあり減収を見込む
- 半導体露光装置は堅調な需要からArF露光装置を中心に前年比増収。前回予想比では顧客要請等により一部装置の来期への繰延があり下振れ
- 精機事業全体では、通期予想を100億円引き下げ

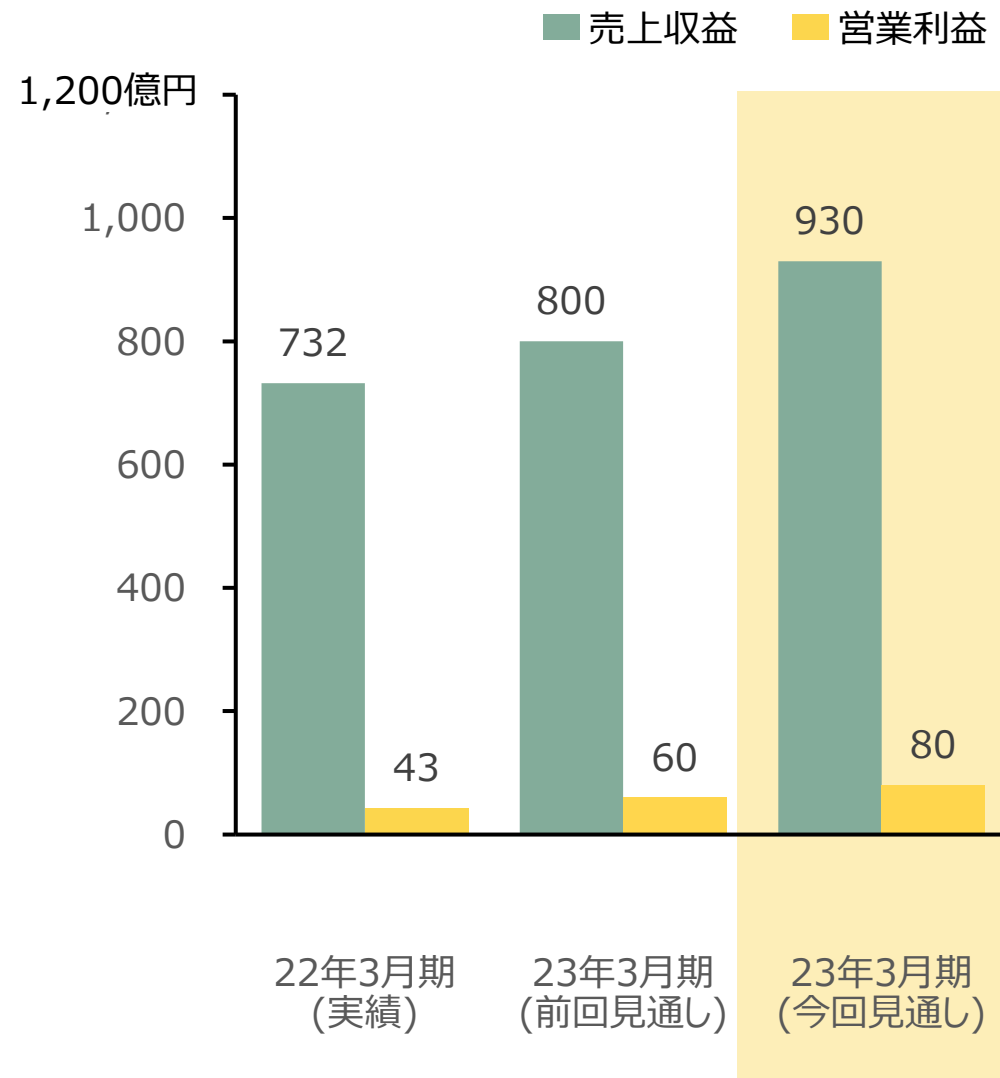
● 営業利益：前年比94億円減益（前回比50億円下方修正）

- 半導体露光装置は、新品・中古号機の販売台数増となるも、FPD露光装置の販売台数減により、精機事業全体では前年比減益を見込む
- 前回予想比では、一部のFPD・半導体露光装置の据付完了の来期への繰延に伴い、通期予想を50億円引き下げ

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：2023年3月期より、半導体露光装置の市場全体及びニコン販売分の双方に、i線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記（2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示）

2023年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



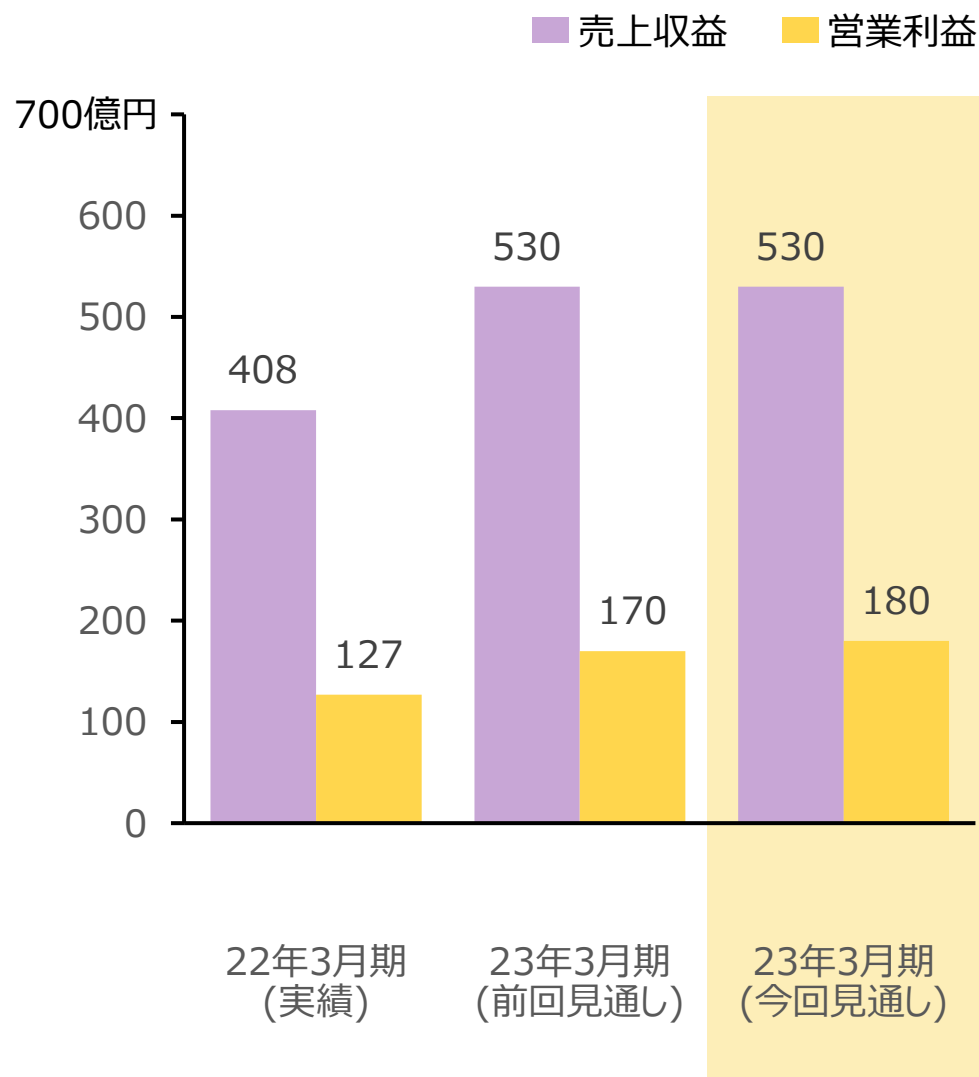
● 売上収益：前年比198億円増収（前回比130億円上方修正）

- 今期も過去最高の売上を更新する見込み
- 生物顕微鏡は、北米を中心に、中国、その他地域において新製品の拡販および民間市場の開拓による増収を見込む
- 網膜画像診断機器は北米のほか、欧州・アジアでの売上増加を目指す
- 生物顕微鏡、網膜画像診断機器共に半導体部品・物流の逼迫は解消傾向にあるが影響は継続、引き続き安定供給に努める
- 好調な受注と為替前提の変更を反映し、通期予想を前回予想比130億円引き上げ

● 営業利益：前年比37億円増益（前回比20億円上方修正）

- 生物顕微鏡・網膜画像診断機器の増収効果等により、通期予想を前回予想比20億円引き上げ

2023年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



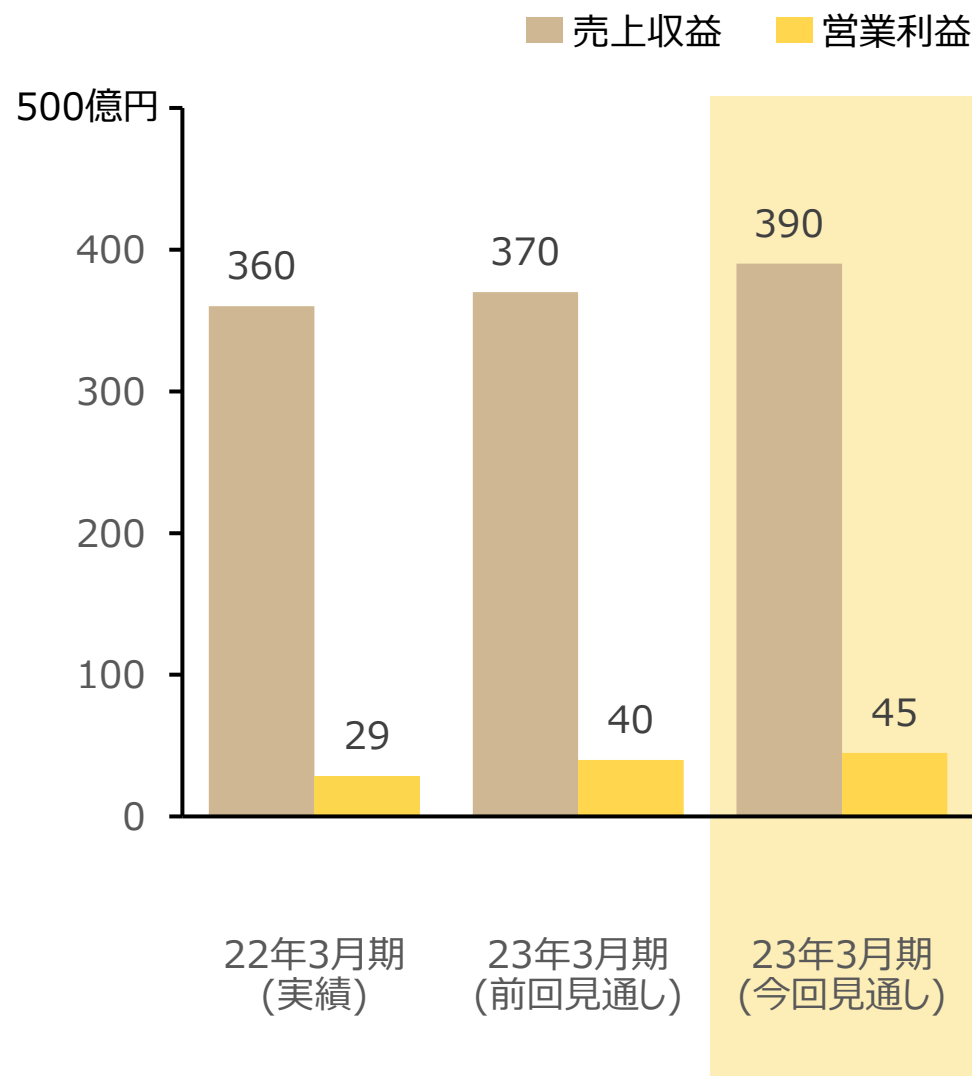
- **売上収益：前年比122億円増収（前回予想据え置き）**

- EUV関連コンポーネント、半導体関連製品の光学部品、光学コンポーネントやFPDフォトマスク基板等が売上拡大に寄与

- **営業利益：前年比53億円増益（前回比10億円上方修正）**

- 前回予想比では、光学部品、光学コンポーネントの好調が利益寄与した上期実績を反映し通期予想を10億円引き上げ

2023年3月期 通期見通し：産業機器・その他



● 売上収益：前年比30億円増収（前回比20億円上方修正）

- 産業機器事業では、画像測定システムの堅調な販売に加え、X線検査装置等の売上拡大を見込む
- 上期実績を反映し、通期予想を前回予想比20億円引き上げ

● 営業利益：前年比16億円増益（前回比5億円上方修正）

- 「その他」に含まれる国内生産子会社の稼働率向上により増益
- 産業機器事業では、新製品の研究開発や販売体制強化のため、費用増加を見込む
- 増収効果により、通期予想を前回予想比5億円引き上げ